

最後は、「編集について」です。

審査していて、一ページ全てが写真だけで、写真のサイズが小さく表情がわからない、それが数ページ続いていたりしもったいないと思うことがあります。たくさんの写真を詰め込むだけだと読み手は物足りなさを感じます。ちょっと文章を添えるだけで写真が生きます。説明の文章と写真を読み比べられるようにすると一層効果があります。北海道新聞社の写真部の方に読者を引き付けるコツを教えていただきました。1ページの中に1枚印象的な写真を入れると効果的だということです。写真のサイズは少し大きめ、正面を向き表情がよくわかる写真です。適切な写真がなければ、トリミングしてアップにするといいそうです。1ページの中の写真は最大でも全体の6~7割位までにし、文章が3割以上になるように心がけたいものです。

では、取組例です。

千歳市立みどり台小学校の広報紙は、写真や挿絵がとても見やすいレイアウトです。特にサンドレイク小学校との交流や学級紹介のページは児童の表情が魅力的です。サイズが少し大きめで正面を向き、いい表情をしている写真は絶大な効果があるようです。また、少し大きめのイラストを目立つように配置してあることが親しみを増す効果を上げています。

北見市立南小学校の広報紙では、「お薦め本の紹介」をしています。実際の本の表紙の写真を掲載し、それと紹介文がよくマッチしています。本の題名を一回り大きな活字にして目立たせてあることも読みやすさにつながっています。さらに、人物のイラストにマンガのような吹き出しがついており親しみが持てます。写真やイラストと文章

のバランスや、割り付けにゆとりを持たせることが大事だとわかります。

小樽市立稲穂小学校の広報紙は、やはり本の紹介に実際の本の表紙の写真を使っており興味を引き出しています。また、「支えてくれる地域サポーター」紹介のページは、取材した内容を分かり易くまとめてあり、特に写真の下にその写真の説明がついていることが効果的です。写真と紹介文のバランスはおよそ6:4で見やすくなっています。内容が把握しやすいように小見出しをつけ、「通学路の危険箇所や子供たちが歩く様子を観察し、学校側と共有」「自作の安全マップで危険箇所を把握・連携」などと具体的に表現していることも効果があります。小見出しを少し大きなサイズにすると印象が強まるようです。